令和５年度の学校評価

本年度の重点目標	今まで以上に安全で安心な学校づくりを目指す。そのためには、家庭や地域、企業との連携を図りながら推進する。また、生徒や保護者の夢を形づくるなど、３年間の学びを通して、社会から期待される生徒の育成や地域から愛される学校を目指す。 (1) 生徒との好ましい人間関係をつくり、職員と生徒が一丸となって教育活動に取り組む。 (2) 基礎・基本を大切にして、スモールステップを踏むなど分かりやすい授業を実践すると共に、生徒の学習意欲を引き出すための授業改善に取り組む。 (3) 基本的な生活習慣の確立を図り、全校生徒が自ら進んであいさつができるように、生徒を主体としたあいさつ運動の支援を行う。 (4) 教育活動全般を通して、生徒が思いやりをもち、互いの個性を尊重しつつ周りの生徒と協力して行動できるように、生活指導を推進する。 (5) 生徒を地域のイベントに積極的に参加させるなど、より多くの学びの機会を設け、活動を通して達成感や自己有用感などを体得させ、自ら進んで学ぶ姿勢を養う。 (6) 工科高校として、時代と地域社会に即した教育の在り方について研究する。 (7) 普段の教育活動や行事内容について、ホームページなどを積極的に活用して、家庭や地域社会に向けた情報発信に努める。 (8) 安全衛生委員会などの既存組織を活用し、ワーク・ライフ・バランスに十分配慮し、職場環境を整えていく。さらに業務改善に向けた取組として「業務の見える化」を進め、業務を分担できる協働体制をつくる。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	・ＰＴＡ諸活動をとおして、保護者に開かれた雰囲気づくりをする。 ・防災訓練を通じ、生徒、職員の防災意識を高める。	・文化祭をはじめとした校内諸活動を、できるだけコロナ前の元の形に戻す。 ・防災訓練などを通じ、常日頃から防災について意識させる。また、関係各所と連携をとり、校内避難経路図等の整備を行う。	・引き続き感染対策を講じながら活動する。 ・災害時でも「わかりやすい」工夫をする。
教務部	・新教育課程の実施による本校の教務規定の見直しを行う。 ・入試制度の改変に合わせて、校内業務との調整を図りながら入試業務を遂行する。	・各教科・学科の意見を集約しながら、成績評価の方法や基準の見直しを進める。 ・業務の停滞を招かないように、担任や関連分掌と連絡を取り合いながら効率的に進める。 ・入試制度の改変による校内の入試要項の見直しを早めに行い、選抜委員会を経て、全職員に周知できるようにする。 ・分掌内において、業務の分担を明確にして、平常の学校運営と入試業務を並行して進める。	・各教科・学科との連携をし、情報交換の場を設けて進める。 ・項目と関連分掌とを結びつけ、業務内容を明確にして、分担しながら進める。 ・昨年度の入試日程および業務日程を参考にし、校内業務への影響を把握し、考査や成績処理、生徒指導等の平常の学校運営と入試準備･実施を滞りなく行う。
図書部	・生徒の図書館利用の減少を食い止める。 ・図書館における教育活動の推進を図る。	・魅力的な図書館のディスプレイや生徒が読みたいと思う新刊図書を整備する。 ・生徒図書委員会や職員図書委員会を開催し、さまざまな教育活動を行う。	・限られた予算の中で、最も効果的な図書購入を目指す。 ・授業や部活動にも使用しやすい、開かれた図書館にする。
生徒指導部	・社会のルールやマナーの遵守、規範意識の確立 ・いじめの早期発見と適切な事案対処	・学校活動を通して、マナー、モラルを意識させ、社会の一員としてのルールの重要性と遵守を自覚させる。 ・いじめの情報収集、事案対処の在り方について検証し、いじめの早期発見に努めるとともに適切な対処を行う。	・昨年度は近隣の方から苦情をいただくことが多くあった。生徒の規範意識向上に全職員で一丸となって取り組むとともに、地域、家庭との連携を深めていく。 ・「いじめは絶対に許さない」という姿勢で全職員が協力していじめ問題に対応する。教職員間や学校と家庭との情報共有を密にし、生徒が安心して学校生活を送れるような環境づくりに努める。

特活部	・部活動や学校（生徒会）行事への積極的な参加を促す。 ・福祉・ボランティア活動を通して慈愛の心と社会人基礎力を養う。	・３年間の部活動の定着及び活性化を図る。 ・生徒会の行事が生徒主体で行えるように計画し支援する。 ・福祉・ボランティア活動を通して、地域に貢献できる生徒の育成を目指す。 ・あいさつのできる社会人の育成を目指す。	・部活動登録状況などの情報を担任と共有する。 ・生徒が運営し、教員でサポートする体制を整える。 ・ボランティア活動に自分から進んで行える環境を整える。 ・あいさつ運動に多くの生徒、教員に参加してもらえるよう回数等の情報を提供する。
進路指導部	・教育活動全般を通して正しい職業観・勤労観を育み、生徒の進路選択、進路実現の支援に努める。 ・選科の実施に当たり、生徒の将来設計を考えた選択ができるように努める。	・担任を柱として、学科や職員との連携を深め、情報提供および情報交換を密にし、連携をした進路指導を目指す。 ・選科実施の当たり、学年会、学科主任、家庭科主任と協力をして分かりやすい資料作成や情報提供を実施し、選科作業を進め、選科の年間計画を確立させる。	・職員に対して事業所見学や面談などを通して、進路指導に生かせる情報を得られる機会を提供できるようにする。 ・企業訪問やＷｅｂでの説明会への参加など、企業情報の収集について担任を中心に出来るようにする。 ・Teams を活用して必要な情報がスムーズに伝達できるようにする。 ・選科についての年間予定・各学科資料など選科に向けた情報提供をスムーズに伝達できるようにする。
保健厚生部	・基本的生活習慣を確立させ、心身の健康を保ち自主的な健康管理が行えるようにする。 ・安全で清潔な環境整備に努め、学校全体で取り組む体制を整える。	・個別・集団の保健指導を行い、健康に対する意識の向上を図る。 ・保護者、教員、関係機関が連携して生徒を支える体制を確立する。 ・生徒、職員の研修等を行い、学校安全に努める。	・保護者からの健康カードなどの情報をまとめ、教員が共有できるようにする。 ・必要に応じて個別の健康相談を実施する。 ・学校安全について研修や訓練を実施する。
工務部	・資格取得の推進 ・ホームページ更新頻度を上げ、学校外への情報公開を進める。	・学年会と連携し、資格取得を促す。学科と連携し指導を行い合格率の向上を図る。 ・情報化推進委員によるホームページ更新を進める。ホームページ更新の講習を行う。	・資格の再チャレンジをする生徒へのケアを、学科と連携し行う。 ・危険物取扱者試験の申請は電子申請を推奨していく。
機械科	・安全作業や基礎・基本の定着を図るとともに機械教育の探究に努める。 ・地域社会に求められる人材の育成を行う。	・授業や実習の単元ごとに目標の明確化を図り、テキストや資料のデジタル化を推進する。 ・企業見学や、地域イベントへの参加を積極的に行い、企業からの要望や地域の声を集約し、授業や実習テーマについてキャリア教育の最適化を図る。	・誰でもどの回でも行えるように指導者の目線でテキストを整える。 ・多くの教員に機会を捉えて、企業や地域と係わるようにしてもらう。
電子工学科	・実習や授業における安全指導と内容の見直し ・専門分野への学び力の向上を図る。 ・広報活動の向上	・安全マニュアルを活用し、基本的な安全指導の徹底に加え、生徒の技量や興味・関心を捉え、作業手順や指導方法を見直す。 ・事業所見学などを活用し、自己の進路実現に向けた学習意識を高め、資格取得に向けた提案やサポートを見直す。 ・中学校訪問や学校説明会など外部への情報発信の充実と、校内生徒に向けた活動報告を発信していく。	・毎時、各作業において安全指導・安全作業に努め、ヒヤリハットの情報共有と改善に努める。 ・高校３年間を通じて、計画的に資格取得に取り組めるようにモデルケースを提案する。 ・ホームページの視覚化を進めていく。掲示コーナーを整備して、生徒や先輩の活動や活躍を紹介する。
建築デザイン科	・確かな資質・能力を育み、キャリア教育を行う。 ・実習を伴う授業での安全教育の充実に努める。	・ＩＣＴ機器を用いた授業を通し、生徒の興味関心を引き出すような授業を行うとともに、専門の資格取得や大学等のコンペ参加を目指す。 ・事前に実習に伴う危険予知を行い、事故の予防に努める。また、安全マニュアルに基づいた安全作業の徹底。	・外部講師、出前授業を有効活用し、建設業に対する理解と興味関心の向上に繋げる。 ・実習にとりかかる前に、生徒に対し、安全上の留意点を具体的かつ十分に説明する。

環境科学科	・実技を伴う授業において、安全作業の定着。 ・資格取得の充実 ・進路選択、進路実現のため、自ら学ぶ姿勢を養う。 ・校外への情報発信の充実	・危険予知訓練指導の推進と基礎基本に基づいた作業の徹底を行う。 ・検定・資格の指導内容の検討、補習の充実をする。 ・職場見学、社会人講師の講話などを通じて、進路考察やキャリア教育を行う。 ・中学校訪問、校外活動などを通じて、校外への情報発信を積極的に行う。	・作業を行う前に、危険予知活動やリスクアセスメントを行う実習を組み立てる。 ・必要な学習時間が異なるため、予定を立てて行う。 ・多くの企業と仕事内容を知る機会を提供できるようにする。 ・ＨＲの授業を活用して、適時の情報発信に心がける。
３年学年会	・基本的生活習慣の定着と社会人基礎力の向上 ・進路実現に向けてのキャリア教育の充実	・時間を守ることの必要性を考える機会を設ける。 ・実行力、考え抜く力、チームで働く力など、社会人として必要な能力の向上を図る。 ・進路を実現させるための自己分析と企業研究の機会を増やす。 ・自己実現のために必要な学力・資質を考える時間を作る。	・時間を守る・挨拶・返事・整理整頓などの基本的生活習慣を全職員が見本となって実行する。 ・部活動や資格取得などを通じて得た、努力の過程・成果を言葉で表現させる。 ・全職員の協力により、担任が落ち着いて、生徒と面談できる時間を確保する。
２年学年会	・基本的生活習慣の定着 ・進路実現に向けてのキャリア教育の推進 ・リーダーの育成	・５分前行動を習慣づけ、１年時からの遅刻数の減少、自ら率先して行う挨拶と身だしなみの向上を図る。 ・自己分析を通して、将来像を考えさせ、進路実現のために何をしたらよいのか、思考を深めさせる。 ・学校の中核を担う学年として、部活動や学校行事などに積極的に参加させ、主体的に動ける人材の育成を図る。	・時間を守る・挨拶・身だしなみなど、できるまで粘り強く指導する。 ・進路指導部や学科と連携し、進路意識の高揚を図る活動を検討し、実践する。 ・継続的な声掛けや校内外における様々な活動に積極的に参加する雰囲気を作る。
１年学年会	・基本的生活習慣の確立を図る。 ・工科高校生としての自覚・目標設定をさせる。	・５分前行動や自ら挨拶することを心掛けさせる。 ・各教科学科と連携を図り提出物の有無や授業の取り組み状況について共有する。また、健康観察などから気になる生徒には迅速かつ密な連絡を家庭と図る。 ・各学科等と連携を図り、高校生活の中で資格取得や部活動、ボランティア等、目標をもって取り組ませる。	・円滑な対人関係を築く為にも挨拶や時間を守ることの重要性を確認させる。 ・課題の遅れなどから不登校にならないよう、多くの職員が情報の共有を図り生徒一人一人を見守っていく。 ・各種資格取得を通して、ものづくりに興味・関心が持てるよう、指導に当たる。 ・部活動やボランティア活動に積極的に参加するよう、その意義を伝えるなどの指導に当たる。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		・スクール・ポリシー「三つの方針」について ・業務の見える化、業務の精選、業務分担による働き方改革の推進 ・休み方改革を含めた職員のワーク・ライフ・バランスの啓発 ・ＩＣＴを活用した授業の推進	